

レジメ フォーラムに関するコメント

京都教育大学元教員 村上登司文

- フォーラムのテーマ「危機の時代の平和教育をどう構想するか」

ヴィンターシュタイナー氏の演題

「戦争の時代における平和教育—ヨーロッパの経験から—」

目次

- 1-1 「戦争の時代における平和教育—ヨーロッパの経験から—」 講演目次
- 1-2 「伝統と変遷—平和教育に関するヨーロッパの視点」 August 2008
 - 表1 「平和文化のための教育」に貢献する教育分野
 - 表2 新帝国主義、自由主義的、批判的なグローバル・シティズンシップ教育
- 1-3 平和教育への国際的な公的支持
- 2-1 危機（戦争）の時代に平和教育をどう構想するか
- 2-2 日本国内の平和教育は、今何をなすべきか
- 3-1 これからの平和教育研究
 - 表3 発達段階別に見た平和教育の学習目標
 - 図1 戦争を見る視点

1-1 「戦争の時代における平和教育—ヨーロッパの 経験から—」 講演目次

- I. 戦時下における平和教育
- II. 平和教育と平和政治
- III. 平和教育の分野
- IV. 政治的・教育的課題
- V. 主要概念
- VI. 実例
- VII. バランスのとれた教育のためのチェックリスト
- VIII. リソース

1-2 「伝統と変遷－平和教育に関するヨーロッパの視点」 August 2008

○平和教育の3つの段階

- ① (1945～1960年代後半) 第二次世界大戦以降の「国際理解教育」
 - 伝統的な平和教育では、学習者が国の戦争システムと戦うことを奨励しない。
 - 国際理解のための非政治的な教育
- ②1968年以降の社会批判運動…「批判的教育」
 - 南北問題、核問題 + 生態学的問題、ジェンダーの視点
 - 政治的ではあるが時に一方的な「批判的」平和教育
- ③1990年代以降 ユネスコの枠組で発展した「平和文化のための教育」
 - 暴力文化を平和の文化へ
 - 批判的教育学を総合的な平和教育アプローチに統合 (①②の両方を利用する)

表1 「平和文化のための教育」に貢献する教育分野

Betty Reardon (2000)		EURED (2002)	日本での分類 (2024)
Education about peace	“traditional” peace education	peace as topic	平和教育 (狭義)
	human rights education	human rights education	人権教育
	conflict resolution	Education for non-violent conflict transformation	紛争解決教育・非暴力的変革教育
Education for Peace	International education	global education (and subfields)	国際教育・グローバル教育
	Multicultural education	intercultural education (and subfields)	多文化教育・異文化間教育
	Environmental education	environmental education	環境教育
		civic education	市民性教育
		gender education	ジェンダー教育

参考：Winetersteiner 2008, Conference Paper, “Traditions and Transitions: A European Perspective on Peace Education”

表2：新帝国主義的、自由主義的〔リベラル〕、批判的なグローバル・シチズンシップ教育

← ディメンジ ョン← 〔次元〕 ←	ハード（新帝国主 義的）グローバル （シティズンシッ プ）教育 ←	ソフト（リベラ ル）グローバ ル・シチズンシ ップ教育 ←	批判的（脱植民地的） グローバル・シチズン シップ教育 ←
主なターゲ ットグル ープ ←	グローバルエリー ト（北と南） ←	← 欧米諸国の人々 ←	すべて ← 特に恵まれないグル ープに焦点を当てる ←
（教育的） グローバ リゼーシ ョンにお ける利益 ←	機会 ← 個々のチャンス に集中する ←	開発 ← 貧しい国々の 「発展」 ←	民主主義 ← グローバルな正義を 求める闘いの新たな 舞台：下からのグロ ーバリゼーション ←
全体アプ ローチ ←	世界をそのまま受 け容れる ←	世界が変わること を望んでいるが、 権力構造には取り 組まない ←	根本的な構造的・文化 的変革を目指す ←

1-3 平和教育への国際的な公的支持

- 1978年 国連軍縮特別総会の最終文書で「軍縮教育10原則
- 国際的な動きとして1999年に「平和の文化に関する宣言」が国連総会で採択され、ユネスコによる教育活動が、「平和の文化」のための教育活動の下に集約されていく。
 - 2000年 国連「平和の文化国際年」
 - 2001年から2010年まで ユネスコ「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」
 - 2005年から2014年までが 国連「持続可能な開発のための教育10年（DESD）」
 - 2005年『戦争を無くすための平和教育－「暴力の文化」から「平和の文化」へ』
- 地域レベルでは非核平和都市宣言をした地方自治体が多く、その中には平和教育や平和啓発に熱心な県や市がある。
- 2017年 国連「核兵器禁止条約」が採択され、2021年1月に発効。
- 2023年「ユネスコ教育勧告1974」の改正

2-1 危機（戦争）の時代に平和教育をどう構想するか

- 1. 根本的な原因を認識する： 紛争や暴力の根本的な要因を理解する。教育は、**排除、不公正、不平等**に取り組むべきである。こうした根本的な原因を認識することで、予防と解決に向けて取り組むことができる。
- 2. 対話と理解を促進する： 生徒間の開かれた会話と対話を奨励する。共感、積極的な傾聴、紛争解決のスキルを教える。理解と思いやりを育むことで、溝を埋め、反感を減らすことができる。
- 3. 教科や学年を越えてカリキュラム化されるべきである。非暴力、人権、**グローバル・シチズンシップ**に関するトピックを盛り込む。
- 4. 批判的思考と**メディアリテラシー**を重視する。信頼できる情報源を見極め、偏見に異議を唱え、誤った情報に対抗できるよう指導する。
- 5. 平和博物館（戦争遺構）への修学旅行： 広島や長崎にあるような平和博物館を訪れることで、生徒たちは見聞し、戦争の影響について理解を深めることができる。

2-2 日本国内の平和教育は、いま何をすべきか

- 1. 現代的な武力紛争に対応する方法を考える：テロや内戦など現代的な武力紛争について、教室でどう取り扱うのかアップデートが必要である。戦争の原因を科学的に認識し、実際に戦争を阻止して平和を守り築く方法を探求する。→ドイツの外交・安全保障政策の教育を参考
- 2. 若い世代の政治参加を促す： 民主主義を強固にするために、若い人々が政治に関心を持ち、選挙に参加することが重要である。**他国の平和教育の実践例**を学ぶ。日本でも同様の取り組みを進めていけるかを検討。
- 3. 教育現場での実践を重視する：平和教育は教室での実践から始まる。教員は、子どもたちに平和の尊さや戦争の非人間性を理解させるだけでなく、具体的な平和の形成・構築についても考えさせる。
- 4. ウクライナや**ガザについての情報収集**を通じて、戦争体験や被害者の声を聞く。弱者に寄り添う日本の平和教育に繋がる。国内の平和を守るだけでなく、世界で**平和を構築する**ための教育方法を探る。

3-1 これからの平和教育研究

従来型（伝統的）平和教育→ 次世代型の平和教育→ 危機の時代への
対応

- ①平和教育の目的として、「批判的に認識する力」の育成を
- ②方法の重視：「目的重視の平和教育」→「方法重視の平和教育」
- 子どもが主体的に参加できる学習方法を：教師中心の平和教育→子ども中心の平和教育
- ③内容面で、平和教育のマンネリや形骸化を防ぐ
 - 子どもの発達段階に応じた平和教育のカリキュラム化を
 - 現代社会で子どもが対峙する平和課題の解決を考察できる力を

表3 発達段階別に見た平和教育の学習目標

平和教育プログラム（広島市教育委員会 2013、2023下記に変更なし）		平和教育手引書（長崎市教育委員会 2018）	
小学校 1, 2, 3学年	被爆の実相に触れ生命の尊さ や人間愛に気づく	小学校 1, 2学年	平和の大切さに気づき 平和への想いを伝える
小学校 4, 5, 6学年	被爆の実相や <u>復興の過程</u> を理 解する	小学校 3, 4学年	平和の <u>心を育み</u> 、平和 への想いを伝える
中学校 1, 2, 3学年	<u>世界平和にかかわる問題</u> を考 察する	小学校 5, 6学年	平和への <u>心を深め</u> 、平 和への想いを伝える
高等学校 1, 2, 3学年	平和で持続可能な社会の <u>実現</u> について展望する	中学校 1, 2学年	平和について <u>過去と現 在を見つめ、行動する</u>
		中学校 3学年	平和について <u>未来を考 え、行動する</u>

- ・ 戦争体験の「継承」→平和の「発信」（広島市教育委員会 2013）→
平和の「創造」（長崎市教育委員会 2018）。
- ・ 長崎市の「平和教育手引書」（長崎市教育委員会 2018）は、方法と
して広島市と同様に「対話型授業の実践」を重視している。

図1 戦争を見る視点

○ 【侵攻される側】 ウクライナ…日本

- ・空爆される市民の被害状況
- ・日常生活の破壊 学校、病院、インフラ
- ・戦争下の避難 砲撃避難場所（防空壕と地下室）、避難／避難民
- ・戦争被害 戦没者、家族の別離
- ・戦時下の国家総動員体制（18～60歳までのウクライナ人男性は出国禁止）
- ・言論統制・政治的規制
- ・排外主義（ロシアとの友好モニュメントの破壊、ロシア語文化の禁止）

○ 【侵攻する側】 ロシア…日本

- ・接收、言論統制、徴兵
- ・教育の統制 密告の奨励 相互監視社会
- ・政治的規制
- ・排外主義（ウクライナをナチス呼ばわり）

【周辺国・関係国】

- 避難民の受入、軍事支援
- 制裁、報復（ボイコット、禁輸、非友好国）

遠くと近くの戦争の乖離（隔たり）を埋める。

「今ウクライナで起きていることと、昔日本で起きていたこと」「侵攻する側からされる側へ」

参考文献・資料

- Werner Wintersteiner 2008, Conference Paper “Traditions and Transitions: A European Perspective on Peace Education” August 2008.
- Werner Wintersteiner 2020, “Educational Sciences and Peace Education: Mainstreaming Peace Education into (Western) Academia? ”
- Werner Wintersteiner 2019, “Peace Education for Global Citizenship” The Genuine Global Dimension of Betty Reardon’s Concept of Peace Education.”
- Werner Wintersteiner 2024, “Peace Education in times of war? A European experience.”
- 上地完治・寺田佳孝 2022、「シンポジウム 新しい時代を切り拓く平和教育のあり方について」『カリキュラム研究』31。
- 寺田佳孝 2012、『ドイツの外交・安全保障政策の教育：平和研究に基づく新たな批判的観点の探求』風間書房。
- 名嶋義直、神田靖子編 2020、『右翼ポピュリズムに抗する市民性教育 ドイツの政治教育に学ぶ』明石書店。
- ベティ・リアドン、アリシア・カベスード 2005、『戦争をなくすための平和教育ー「暴力の文化」から「平和の文化」へ』明石書店。
- 村上登司文 2022、「2000年代以降の平和教育研究の動向と成果」『広島平和科学』44号。